

今後の取組みについて

東京証券取引所 上場部

2026年2月18日



参考：これまでの経緯

市場区分見直し（2022年4月）

目的：上場会社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上を支え、国内外の多様な投資者から高い支持を得られる魅力的な現物市場を提供

プライム市場

高い流動性とガバナンス水準を備え、グローバルな投資家との建設的な対話を中心に据えた企業向けの市場

スタンダード市場

公開された市場における投資対象として十分な流動性とガバナンス水準を備えた企業向けの市場

グロース市場

高い成長可能性を有する企業向けの市場

市場区分見直しのフォローアップ（2022年7月～）

⇒ 市場区分見直しの実効性向上のため、投資家の期待に応じて企業価値向上に取り組むことや、少数株主保護など、上場会社としての責務を果たしていただくための施策を各市場区分で推進

主なフォローアップ施策

主なフォローアップ施策		
2023年1月	全市場	フォローアップの大方針（論点整理）を公表 上場維持基準に関する経過措置の終了時期を決定
3月	プライム・スタンダード	資本コストや株価を意識した経営の要請
2025年2月	全市場	「親子上場等に関する投資者の目線」を公表
4月	プライム	英文開示の義務化
7月	全市場	I R体制整備の義務化、「I R体制・I R活動に関する投資者の声」を公表
7月	全市場	非公開化時における企業行動規範の見直し
9月	グロース	「高い成長を目指す企業」が集う市場とするための施策 （「高い成長を目指した経営」の働きかけ、上場維持基準の見直しなど）
2026年3月～	全市場	上場維持基準の改善期間の終了
検討中	スタンダード	スタンダード市場の検討（投資家保護・企業価値向上）

今後の取組み

資本コストや株価を意識した経営の推進（プライム市場など）

- 「成長分野への投資」の加速（CGコード改訂と連動）
 - 「成長分野への投資」など経営資源の有効活用に関する投資家の期待等の検討材料を提供【2026年夏頃】
- 企業の取組みのサポート（継続）
 - 投資家アンケートを実施し、取組みの進展が見られる企業を公表【2026年4～6月】
 - 事例集のアップデート【2026年秋～】、経営者への啓発【継続】
- 企業・投資家双方の目線合わせ
 - 企業アンケートで、投資家への要望等を収集・公表【2026年4～6月】
- 開示していないプライム企業に、理由・方針の開示を促す【2026年夏～】

資本コストや株価を意識した経営を推進する中での課題

親子上場

- グループ経営や少数株主保護に関する検討・開示を推進
 - より実効的な方策の検討（開示すべき項目の再整理等）【2026年夏～】
- 少数株主保護の観点から必要な上場制度を整備（少数株主の賛否割合等の開示、独立性基準の見直し）【2026年春】

完全子会社化・MBOが増加する中での課題

非公開化

- 一般株主の公正な利益確保の観点から、特別委員会における検討の実効性向上や必要な情報開示の充実を推進
 - 2025年7月の企業行動規範の見直し後の状況を踏まえた啓発活動（社外取締役向けセミナー等）を実施【順次】

グロース市場改革

- 高い成長の実現に向けた働きかけのフォローアップ
 - 投資家の期待や「働きかけ」の内容を個別に再周知【継続】
 - 企業の取組み状況・投資家評価の振り返り【2026年夏頃】
- グロース上場メリットの創出
 - 経営者向けアンケートで意見収集【2026年4～5月】
- 積極的に取り組む企業のサポート
 - グロース向けセミナー、機関投資家との対話会【継続】
 - JPXスタートアップ急成長100指数のPR【順次】
 - 事例集のアップデート（プロセスを追加）【2026年秋頃】

（参考）TOPIXの見直し（第2段階）

- スタンダード・グロースからも組み入れ（2026年10月以降）

- プロマーケットの機能発揮（一般市場上場と非上場の間の活用ニーズに対応）【2026年春～】

スタンダード市場の魅力向上

- 多様な企業が上場する市場区分として、以下の観点で検討・取組みを推進【2026年春～】
 - 投資家保護上問題のある企業行動への対処
 - 企業価値向上の必要性を認識してもらうための環境整備
 - 積極的に取り組む企業の見える化・サポート

経過措置の終了に伴う対応

- 改善期間の終了を見据え、株主・投資者への周知・注意喚起を徹底【継続】